

支援部便り

NO. 4

令和 6 年 8 月 26 日
宮城県立金成支援学校
支 援 部

専門性向上研修会を終えて・・・



7月26日（金）栗原市教育研究センターにおいて、「発達に偏りのある子どもの理解とアタッチメントの役割について」と題し、東北学院大学教授の平野幹雄先生を講師に迎え、御講話いただきました。

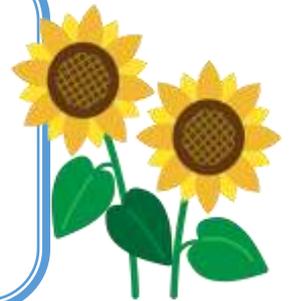
今年もアタッチメント（愛着障害）について詳しく学びたいという声が多く聞かれ、外部からは昨年よりも他職種の方に参加していただくことができました。

今回の講話では、愛着形成のメカニズムや心の安全基地の必要性などについてお話しいただき、愛着障害への理解が深まりました。また、子供たちへの関わり方や支援について事例を交えながら分かりやすくお話しいただきました。今後の指導や支援のヒントをたくさんいただき、大変有意義な研修会になりました。

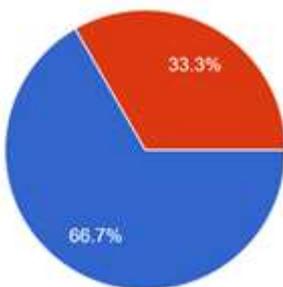


<参加者>

幼稚園・・・3名
小学校・・・7名
中学校・・・5名
本校職員・43名
その他・・・7名
計・・・65名



アンケート結果（研修満足度）



- 大変満足している
- 満足している
- あまり満足していない
- 全く満足していない

感想・・・

- ・非常に分かりやすい説明で、子供たちへの関わり方について参考になった。
- ・担任している子供を思い浮かべながら話を聞いた。誉めるよりも認める方が良いことを実践していきたい。また、貧困と安全基地の関係も興味深かった。
- ・基礎的な考え方や理論を再確認できて良かった。
- ・指導のヒントをたくさんいただけた。
- ・そのときに起こっていることや表面的に目につくことだけにフォーカスしてしまいがちだが、その陰でできていることや結果ではなくやろうとした意図やプロセスを認めることなどが大事だと学んだ。

今後も、皆さんの様々なニーズに応えていけるような研修会を企画し、地域のセンター的役割として広く多くの方々に研修の場を提供できればと思っています。そのときは参加をお待ちしております！